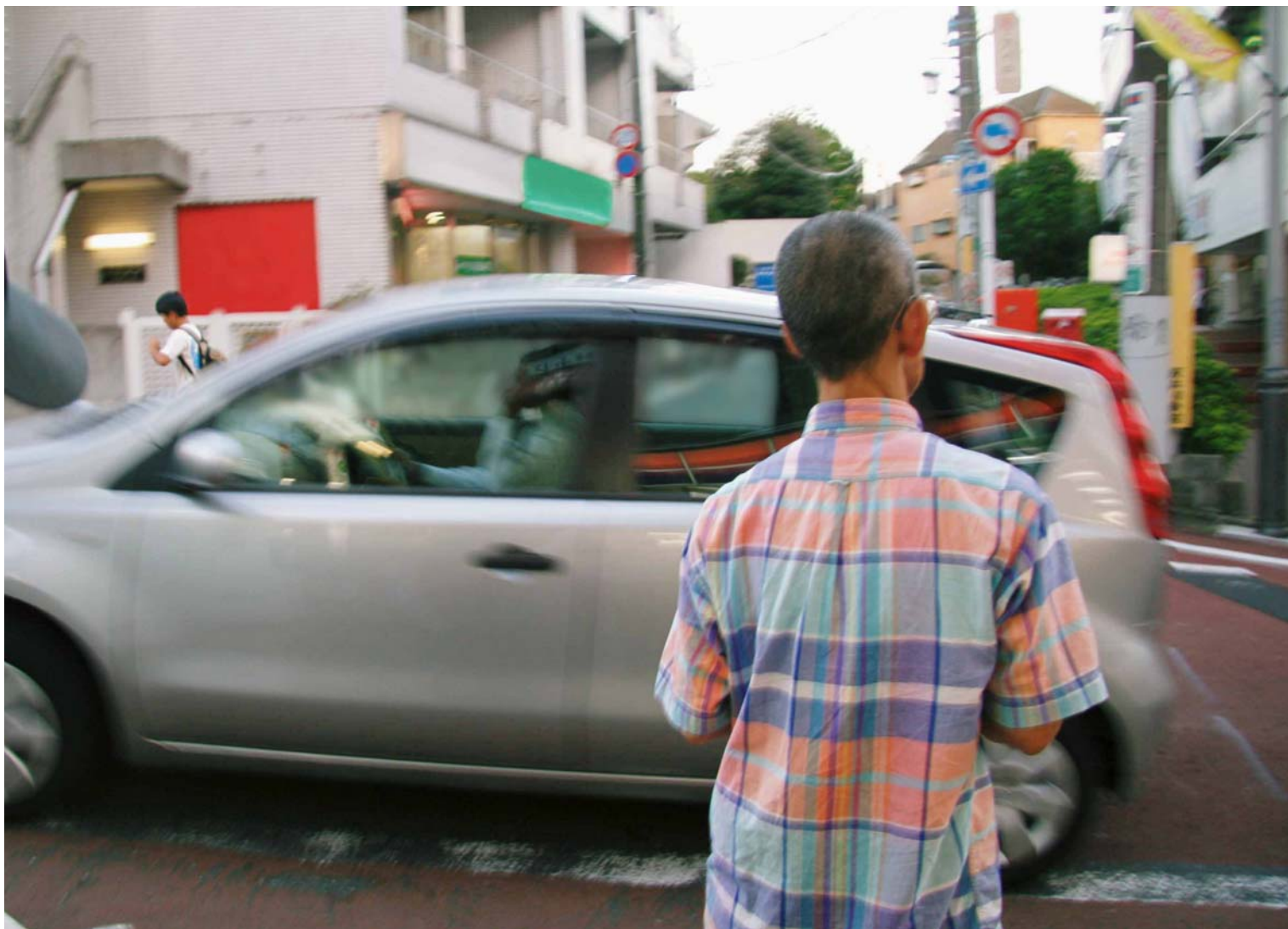


混合交通を観察する  
**DOCUMENT**  
●series—201  
**Eye**



走行中に携帯電話を使用する自転車利用者



●観察場所／東京都杉並区高井戸西一丁目  
京王井の頭線「富士見ヶ丘」駅周辺  
●観察日／10月10日(火曜日)  
●天候／晴れ  
●観察時間／15:55～17:55  
●観察者／5名

**交通参加者の携帯電話使用状況は?**  
●WHY  
現在、携帯電話は契約台数が9000万台を突破し、幅広い年齢層で多くの人々に利用されている。  
携帯電話の普及にとまどない、運転中の携帯電話使用に起因する交通事故も増加したため、平成11年11月の道路交通法改正により走行中の携帯電話の使用が禁止

観察場所は東京都杉並区の京王井の頭線「富士見ヶ丘」駅周辺。通りの両側には商店が並んでおり、途中には踏み切りが設けられていた。歩道は設置されておらず、道路の両側に路側帯が表示されている。  
2時間の観察で、運転中に携帯電話を使用したドライバーは829人中26人、ライダーは73人中2人であった。踏み切り待ち等の停車中含む。自転車利用者では、266人中7人が乗車中に携帯電話を使用。歩行者は、996人中59

**踏み切り待ちで停止すると携帯電話を操作するドライバー**  
●WATCHING  
さらに、平成16年11月には走行中に携帯電話を保持して通話をしたり、メールの送受信等のために画像表示用装置を手で保持して注視した場合、道路における交通の危険を生じさせなくても罰則の対象となるように規制が強化された。  
東京郊外の駅付近で、道路を通行するドライバー、ライダー、自転車利用者、歩行者の携帯電話使用状況を観察した。



踏み切り待ちが続くと、メールなどをチェックする人が増える



車道にはみ出して携帯電話を利用する歩行者

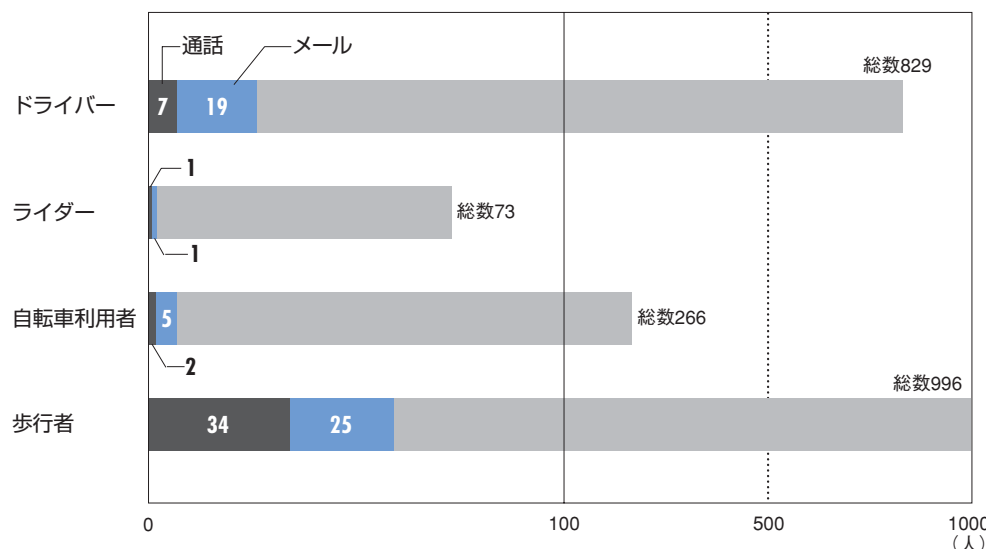
●交通参加者の携帯電話使用状況を観察する  
**運転中に携帯電話を使用したドライバー829人中26人(3.1%)**



ヘルメットをかぶらず、携帯電話を使用しながら走行するライダー

**携帯電話を使用している歩行者、自転車利用者には十分注意した運転が必要**  
●PROPOSE  
人が歩きながら使用していた。  
ドライバーの場合は、踏み切りで停止中にメールチェック等で画面に見入るケースが目立った。また、停止中に通話を開始してそのまま発進していったドライバーも見られた。  
一方、ハンズフリーを利用して通話しているドライバーは6人観察された。  
携帯電話を使用している自転車利用者は片手運転となり、不安定な走行をしているケースも見られた。  
歩行者の場合は、駅を出るとすぐに携帯電話を使用し始める姿が目立った。歩行中に携帯電話を使用する人は、急に立ち止まったり、歩き始めたりと歩行スピードが一定でなく、路側帯からはみ出している人もいた。

●携帯電話の使用状況(踏み切り待ち等の停車中含む)



るにもかかわらず、使用しているドライバーやライダーが観察された。そして、携帯電話を使用している歩行者や自転車利用者は、急に立ち止まる、車道にはみ出すなど、他の交通参加者への注意が薄れているように思われた。  
ドライバーとライダーは、走行中の携帯電話使用をやめ、携帯電話を使用している歩行者や自転車利用者には十分注意した運転をすることが重要だ。  
一方、歩行者や自転車利用者は、携帯電話を使用する際には、他の歩行者などの通行を妨げない場所で使用することが望ましい。